

最近では珍しい晴れ渡った天気になりました。宇賀の遠山（弥山）の山頂もくっきりと見えます。さて、君たちの心は、この天気のように晴れ渡っているでしょうか。2学期すべきことをしたという実感のある人は、この天気のような気持ちで今ここにいることでしょうか。

2学期は学園祭に始まり、例年になく大行事である創立120周年記念式典、体育科・コースの全国研究大会が本校でありました。創立120周年記念式典や体育科・コースの研究大会では、君たちの挨拶や聞く姿勢、主体的に授業に臨んだり運営に協力する態度にたくさんのお褒めの言葉をいただきました。

一つ一つあげることはできませんが、履き物に関すること2つほど紹介します。1つ目は、創立120周年記念式典で、お客さんが出入りしている体育館のトイレのスリッパをそれとなく揃えている生徒がいたことです。2つ目は、体育科の研究大会前日、私が視察に来られた方を「いなさ会館」に案内した際、会館の入り口で脱いだ靴が、出るときは出口に向けて靴を揃えてあったことです。

いずれも些細な事ですし、皆さんが当たり前のようにしていることかも知れません。しかし、身についた習慣が当然のごとく行われることは素晴らしいことだと思います。「ものの善し悪しは細部に宿る」と言いますが、学校の善し悪しも皆さんのそんな行為でわかるのかもしれませんが。「開運！なんでも鑑定団」という番組がありますが、掛け軸などの鑑定をするときはルーペで細部を確認する姿をよく見かけますね。細部にこそその画家の技量が現れているということなのでしょう。

こういう場合、一般には「神は細部に宿る」ということわざがよく使われます。元サッカー日本代表監督の岡田監督は「勝負の神様は細部に宿る」とよく言っていたといいます。負けた試合を振り返るとき、小さな事が要因だったことに気づくこともあります。それにつながる言葉です。

「神」のところはいろいろと置き換えができます。「合格の鍵は細部に宿る」「コミュニケーションの鍵は細部に宿る」などです。後者については、言葉以外のしぐさ・眼差し・声のトーン・気遣いなどが細部に当たると思います。これらは実は、数日の練習でなかなか身につかないものであり、普段の習慣や意識付けで身につくものです。面接試験でも話す内容は覚えればできますが、このような細部は普段からの意識で身につけるものです。そしてその人の人間性にも深く根付いています。実は面接官の印象にもよく残ります。

2学期の振り返りとして、自分の生活や人との接し方などについて、自分の細部はどうなっているか振り返ってみてください。当たり前のことをないがしろにしていなかったか、人を傷つけていることはないか、人への配慮は欠けていなかったかなど。

さて、明日から冬休み、そして正月を迎えます。新年はリセットする行事です。リセットするためには心を整える必要があり、心を整えるために目に見える世界の形を整えます。それが大掃除です。学校の大掃除は先程終わりましたが、家庭で大掃除はこれからではないでしょうか。学習や部活動もありますが自分の心のために、そして家族への感謝を表すためにしっかりと取り組んでください。それも家族とのコミュニケーションです。

健康と安全に留意して、冬休みを過ごしてください。自分の夢を描き計を立てることも忘れずに。新学期、リセットし新たに変わった皆さんと再会することを楽しみにしています。

平成30年12月21日

島根県立大社高等学校
校長 吉田 彰二